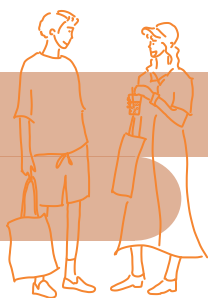
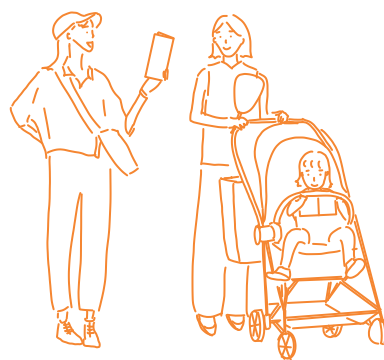


新図書館（本館）整備に向けた 令和5年度検討報告書



岸和田市教育委員会生涯学習部図書館

はじめに

岸和田市教育委員会では、令和5年2月、市制施行100周年を新図書館（本館）整備のキックオフの年と位置づけ、機運醸成に向けた記念シンポジウムを開催するとともに、これからの図書館に求められる姿を「岸和田市図書館のありかた」（以下「ありかた」という。）として取りまとめるなど、新図書館（本館）の整備に向けての取組を始めました。

「ありかた」では、令和5年度以降の進め方として、全庁的な検討組織を立ち上げ、「ありかた」を基に、新図書館（本館）整備に向けての調査、研究を進め、立地場所の決定や施設整備の計画決定、基本・実施設計へとつなげていくことを記しています。

これを受けて、令和5年5月に政策決定会議の専門委員会として、「新図書館（本館）整備庁内検討委員会」を設置し、「複合施設の検討」・「立地可能場所」を中心に、調査、研究を行ってきました。

本報告書は、それら令和5年度の調査、研究経過をまとめたものであり、令和6年度以降、備えるべき機能や必要な施設、複合化の可能性や立地場所の決定等、新図書館（本館）整備に向けた取組を進めていきます。

令和6年3月

岸和田市教育委員会生涯学習部図書館

目次

1 . 立地可能場所の抽出	————	P. 1
2 . 各立地可能場所の検証	————	P. 2 ～ P. 9
3 . 今後のスケジュール	————	P. 10
4 . 議事録	————	P. 11～P. 21

参考資料

1. 立地可能場所の抽出

新図書館（本館）の立地場所を決定するにあたっては、「ありかた」で示した4つの基本的な考え方を基に、総合的に判断することとしています。

新しい図書館のありかた

「人と人、情報がつながる知の拠点～よりあい、つながる、本の城～」 / 市民共創の図書館

立地場所の基本的な考え方

- (1) 公共交通機関などの交通利便性がよく、市内各所からのアクセスが容易であること
- (2) 他の公共・民間施設との複合化や併設が見込めること
- (3) 図書の整備を契機として、まちの賑わいづくりや、魅力創造につながることを期待できること
- (4) 必要な土地の確保が確実に見込めること

抽出した立地可能場所

- I. 現在地
- II. 福祉総合センター隣接地
- III. 南海浪切ホール
- IV. まなび中央公園

2. 各立地可能場所の検証

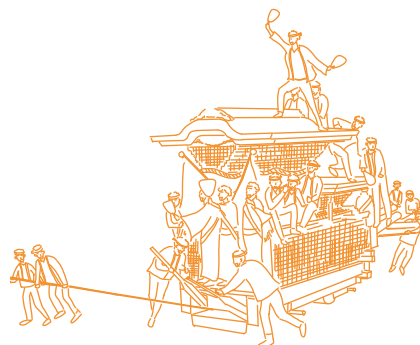
検討委員会では、ⅠからⅣの4立地可能場所について、「ありかた」で示した4つの基本的な考え方を踏まえ、それぞれ調査・検討することとしました。

【立地可能場所Ⅰ】 現在地

都市中核地域で、歴史・文化ゾーンにあり、周辺には岸和田城や五風荘、自泉会館、だんじり会館、自然資料館、岸城幼稚園、市立公民館などの教育・歴史・文化施設があります。

【複合化可能施設例】 認定こども園

立地可能場所の特徴を活かす追加コンセプト 教育・歴史文化振興の拠点



- ・ 認定こども園との複合施設となれば、乳幼児をターゲットとした読み聞かせ専用の「おはなし広場」などを設け、乳幼児から本に親しむ環境を作ることができるとともに、読み聞かせが子どもの成長にどのように影響するのか等の調査分析も可能となります。
- ・ 家庭、学校、地域と連携し、学力向上に向けたソフト事業を充実させることで、子ども読書活動推進事業の拠点施設とすることができます。
- ・ 歴史・文化ゾーンの立地を活かし、地域資料、行政資料の保管・展示・閲覧・アーカイブ機能を充実させ、周辺の資源・機能との連携を図ることが可能となります。

交通の利便性やアクセスの容易性

南海岸和田駅から約 450m、岸和田港塔原線沿いにあり、交通利便性は高く、アクセスも容易です。ただし、車を利用したアクセスについては、駐車スペースが狭く、現状の図書館単独での需要も満たしていません。

他の公共・民間施設との複合化や併設の可能性

- ・ 図書館本館と岸城幼稚園の両方の敷地を合わせて 3,889 m²です。
- ・ 「岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画」で、隣接する岸城幼稚園を含めた4施設の再編による認定こども園設置が計画されていることから、認定こども園との複合化が考えられます。

まちの賑わいづくりや活性化への寄与

岸和田城や五風荘などに隣接しており、知の拠点である新図書館（本館）の整備は、歴史文化が薫るエリアの魅力向上に資することが考えられます。

一方、周辺が住宅地であり、大きな人流に接するエリアではないこと、敷地面積が限られていることから、賑わいをもたらすような民間施設の進出は難しいと考えられます。

必要な土地の確保

岸城幼稚園、図書館本館ともに市有地であり、新たに土地を確保する必要はありません。



【立地可能場所Ⅰ． 現在地 位置図】

課題

立地可能場所の中で敷地が一番狭いことが課題です。また複合施設となると、施設が現状よりも小規模となることが想定されるため、十分な読書スペースや蔵書スペースが確保できるかといった点も課題です。

なお、現在地での建替となれば、図書館本館の一時移転や機能継続のための方策を講じる必要があります。

【立地可能場所Ⅱ】 福祉総合センター隣接地

都市中核地域の都市中枢ゾーンにあり、本市の玄関口ともいえる南海岸和田駅に一番近い立地で、通勤や通学での鉄道利用者は多い状況です。駅東側は福祉総合センターのほか、民間の事業所や商店等が立地しています。

【複合化可能施設例】 市立公民館・自然資料館・民間施設



立地可能場所の特徴を活かす追加コンセプト

中心市街地の賑わいを創出する人づくり・まちづくりの拠点

岸和田駅周辺の活性化は、本市全体の活力向上の観点からも極めて重要です。集客機能を付加した図書館を整備することで、新たな人の流れを創出し、この効果を近接する商店街をはじめ、中心市街地全体へと波及させることが考えられます。特に若い世代(子育て世代、学生など)を集客できれば、いきいきとした雰囲気駅の周辺づくりにつなげることが可能になります。

交通の利便性やアクセスの容易性

南海岸和田駅から約 330m、国道 26 号から約 750m と駅や幹線道路から近く、バスやタクシーの利用者にも非常に便利な立地にあります。駅周辺には駐車スペースも複数確保されているため、交通利便性が高く、アクセスが容易です。

他の公共・民間施設との複合化や併設の可能性

- ・敷地のうち、更地面積は 6,437 m²です。
- ・新図書館に必要な機能を持った近隣の公共施設としては、研修室、多目的室等を持った市立公民館や展示スペース、多目的ホールを持つ自然資料館があります。事業内容を考えると、この 2 施設との複合化は親和性が高いと考えられます。
- ・福祉総合センターには、訓練室やアリーナ、研修室、活動室、大会議室、講座室、工作室、諸芸室、会議室、交流室、和室、調理室などがあり、各施設の相互利用も考えられます。
- ・駅前に立地することから、民間施設との複合化も考えられます。今後、具体化する場合は、サウンディング調査などにより、民間のニーズを見極める必要があります。

まちの賑わいづくりや活性化への寄与

岸和田駅は1日の乗降客数が市内で一番多く、通勤や通学等で大きな人流があるため、これらを図書館へ呼び込めば、滞留人口が増えエリアの活性化につながれると考えます。民間施設との複合化等も含め、人流を呼び込むための方策について、調査、研究が必要です。

必要な土地の確保

市有地であり、新たに土地を確保する必要はありません。



【立地可能場所Ⅱ．福祉センター隣接地 位置図】

課題

都市中核地域の中核ゾーンにあり、駅からのアクセスも良いことから、集客力のある民間施設との複合化も期待できますが、集客施設を新たに整備するためには、進入路の確保などの課題があります。

【立地可能場所Ⅲ】 南海浪切ホール

都市中核地域の交流・集客ゾーンにあり、レジャー施設や商業施設が複数あります。
また、旧岸和田港に接しており、岸和田市の西端に位置しています。

【複合化可能施設例】 南海浪切ホール

※現施設をリノベーションしての活用を想定しています。

立地可能場所の特徴を活かす追加コンセプト 臨海部の賑わいを創出する産業・文化の交流拠点



- ・既存の文化施設や大学サテライトとの連携により、市民が自ら学び、活躍できる知的活動拠点として、相乗効果を生み出す交流拠点施設とすることが可能です。
- ・隣接する商業施設等と連携して、「学ぶ」「遊ぶ」「交流する」場を創出することで、子育て世代の定住促進にもつなげられます。
- ・隣接して商業施設があり、その人流を図書館に呼び込める可能性があります。

交通の利便性やアクセスの容易性

岸和田駅から約 1 km の距離があり、公共交通機関はローズバスのみであるため、公共交通機関を利用したアクセス性は、あまり高いとは言えません。湾岸部に位置し、府道 29 号大阪臨海線沿いの立地であることから、車によるアクセスは容易です。

他の公共・民間施設との複合化や併設の可能性

- ・現在、南海浪切ホールのあるエリアはショッピングモールや、体験施設などがあり、南海浪切ホール内には和歌山大学岸和田サテライトがあります。
- ・南海浪切ホール内に図書館本館を移転することで、文化芸術・生涯学習の交流拠点とすることができます。施設には大ホール、小ホールのほか、多目的ホール、交流ホール、研修室、会議室、食の交流室等があります。

まちの賑わいづくりや活性化への寄与

商業施設と連携することで湾岸部の賑わいを創出する産業・文化の交流拠点として整備することが考えられます。但し、賑わいを創出するには、南海浪切ホールを含めたエリア全体での検討が必要です。

必要な土地の確保

施設をリノベーションした上でのスペース確保となるため、新たに土地を確保する必要はありません。



【立地可能場所Ⅲ．南海浪切ホール 位置図】

課題

都市中核地域にありますが、本市の最西端にあり、車以外の公共交通によるアクセスに課題があります。

また、南海浪切ホールは、「岸和田市公共施設等総合管理計画」では、民間活力の有効活用を検討するとされており、その点について留意が必要です。

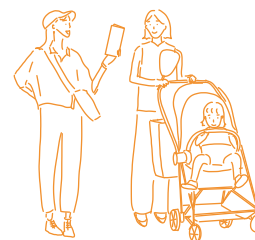
【立地可能場所Ⅳ】 まなび中央公園

都市中核地域の生活・文化ゾーンにあります。

公園内には、文化会館や総合体育館、プール、テニスコート、運動広場などの文化・スポーツ施設があり、多くの市民で賑わっています。

【複合化可能施設例】 文化会館、自然資料館、民間施設

立地可能場所の特徴を活かす追加コンセプト 文化とスポーツ・生涯学習の拠点



- ・文化施設やスポーツ施設、公園施設との連携を図るとともに、生涯学習機能を取り入れることで、文化・スポーツ・生涯学習の一大拠点の形成が可能です。
- ・個々の施設（文化施設、スポーツ施設、公園施設、エリア内の施設）を訪れた多様な人々を呼び込み、新たな情報にアクセスできる図書館とすることができます。
- ・不特定、かつ多数の利用を前提とした公園の人流を、図書館に呼び込むことができます。

交通の利便性やアクセスの容易性

南海春木駅から約 600m、国道 26 号線から約 200m と、駅や主要幹線道路から近く、バスの運行もあります。

また、駐車スペースも 450 台と立地可能場所の中で最も多く確保されているため、車でのアクセス性も高いと言えます。

他の公共・民間施設との複合化や併設の可能性

- ・公園内には、総合体育館や、スポーツ広場、テニスコートなどがあるほか、近くに文化会館もあり、今後、屋内プールの整備も計画されています。
- ・図書館を設けることで、スポーツや文化などの生涯学習の拠点とすることができます。
- ・図書館は、文化や生涯学習との親和性が高いと考えられるため、文化会館や自然資料館などとの複合化が考えられます。民間施設も含め、様々な複合化への検討が可能な立地場所となっています。

まちの賑わいづくりや活性化への寄与

まなび中央公園は来園者が多く、年間約 73 万人という調査結果が出ています。まなび中央公園を生涯学習の拠点とすることで、相乗効果が期待できると考えます。

必要な土地の確保

都市公園法上の面積制限はあるものの、市有地であるため、新たに土地を購入する必要はありません。



【立地可能場所Ⅳ. まなび中央公園 位置図】

課題

本市では現在、まなび中央公園東側に屋内プールを整備する方針であり、プール以外については、今後整備方針を策定予定です。このため、新図書館(本館)の検討を進める場合は、まなび中央公園の整備方針との整合性を図る必要があります。

また、検討を進めるにあたっては、近隣にある文化会館や親和性のある自然資料館などとの複合化の可能性についても併せて検証していく必要があります。

3．今後のスケジュール

令和5年度は、企画課、公共建築マネジメント課、図書館が中心となる作業部会において、4つの立地可能場所の課題や方向性について整理しました。また、新図書館（本館）について、今後検討を進めていくうえで必要となる市民の意見を取り入れるため、学生と一緒にまち歩きワークショップや未来の図書館の空間を考える取組み、まちなかを歩いている人にインタビューなども行いました。

次年度も、市民共創の図書館を目指しながら、引き続き、立地可能場所の検証を深めるとともに、他の公共・民間施設との複合化や併設が見込めるか、また、図書館の立地を契機として、まちの賑わいづくりや、魅力創造につながることを期待できるかについて、さらに検討を進めていきます。

4 . 議 事 録

第 1 回検討委員会		
日時：令和 5 年 7 月 11 日（火）	1 0 時	場所 図書館本館 3 階視聴覚室
【出席者】 総合政策部長・総務部長・財務部長・市民環境部長・危機管理部長・福祉部長・保健部長・子ども家庭応援部長・魅力創造部長・建設部長・教育総務部長・学校教育部長・生涯学習部長・図書館長・図書館企画担当主幹 業務委託者・議事 株式会社オンデザインパートナーズ		
【概要】		
1. 検討方針について		
この委員会は効果的かつ効率的な市政運営のための会議の設置に関する規程第15条に規定する専門委員会で、所管事務については新図書館の整備についての調査及び資料の収集や課題の抽出としている。作業部会で調査・検討した内容を、この検討委員会で報告させて頂き、結論づけるという手法で進めさせて欲しい。基本構想策定に向けた検討の場としての会議体とする。 検討委員の関係課から構成される作業部会を設け、具体的に調査の検討は作業部会で行い、検討委員会に諮る。		
<検討事項>		
① 候補地について ② 複合化について ③ 整備手法について、 ④ 管理運営について の 4 事項とし、主に今年度は、立地と複合化について検討を進めることとする。		
2. 公共図書館をとりまく現状の認識について		
先進都市の事例を説明。今年度検討する内容について説明。		
<立地>		
・ 駅前計画 or 中心市街地内計画 ・ 新築計画 or 既存ビル改造計画 ・ 広場/公園等との連携		
<複合化>		
・ 事業自体の目的の明確化 ・ 既存公共施設の再編 ・ 地元の文化・産業との連携		
3. 年間スケジュールについて		
作業部会で候補地の整理を進める。		
4. 官民で考えていくこれからの図書館（先進事例の紹介）		
庁内検討委員会での検討を進めながら、新図書館の来館者を獲得することにもつながる、地域とのつながりを強化するワークショップやまちなかでのヒアリング等も行う予定。 以上		

第1回作業部会	
日時：令和5年8月2日（水）13時半	場所 図書館本館 3階視聴覚室
【出席者】 企画課担当主幹、企画課主任、公共建築マネジメント課長、公共建築マネジメント課担当長、交通まちづくり課長、交通まちづくり課参事、図書館長、図書館企画担当主幹 業務委託者・議事 株式会社オンデザインパートナーズ	
【概要】 1. 作業部会の進め方 ・ 庁内検討委員会の検討事項は、候補地、複合化、整備手法、管理運営の4つ。 ・ 今年度は、候補地と複合化について検討を進める。 ・ 検討委員会のみでは十分な議論や検討、調査はできないため、作業部会で検討を行う。 ・ 作業部会で候補地、複合化の検討を行い整理したものを、庁内検討委員会に諮る。 2. 候補地説明・課題について 4ヵ所を選定した基準は「岸和田市図書館のありかた」に示した候補地についての次の4つの基本的な考え方によるものであることを説明。 （1）公共交通機関などの交通利便性がよく、市内各所からのアクセスが容易であること （2）他の公共・民間施設との複合化や併設が見込めること （3）まちの賑わいづくりや、魅力創造につながることを期待できること （4）必要な土地の確保が確実に見込めること 以上の要件を満たす「福祉総合センター未利用地」「現地」「南海浪切ホール」「中央公園プール」で検討する。 3. 新たに策定予定の立地適正化計画についての説明を受ける ・ 駅周辺の交通結節点に区域を定め、誘導施設を設けることで集約し、利便性の高く持続可能なまちづくりを進める。 ・ 図書館本館は、誘導施設にあたる。立地適正化計画に位置づけることができれば、国の交付金が受けやすくなり事業が進めやすくなる。 ・ 交通を基軸に考える計画である。 4. 近隣や先進自治体の事例説明と今後のスケジュール ・ 9月までに候補地の整理を目指す。 ・ 10月～11月 管理運営・整備手法の検討を目指す。 ・ スケジュール的にタイトである。整理出来なかった場合は、柔軟に対応していく。 ・ 特別職が判断できる材料を整理し、検討委員会に諮ることを目標にする。 以上	

第2回作業部会	
日時：令和5年8月31日（木）13時半	場所 図書館本館 3階視聴覚室
【出席者】 企画課長、企画課担当主幹、公共建築マネジメント課担当長、交通まちづくり課長、交通まちづくり課参事、図書館長、図書館企画担当主幹、図書館企画担当員	
【概要】 <配布資料> 企画課作成 候補地一覧シート（資料1） 公共建築マネジメント課作成 候補地一覧シート（資料2・3）	
1. 進捗状況について <図書館から各課との協議事項の報告> ・現地【関連課 こども園推進課】 公立認定こども園建設のため、図書館現地の敷地を活用したい。 ・南海浪切ホール【関連課 文化国際課・産業政策課】 南海浪切ホール、マドカホールとも具体的な方針が決まっていない中で、図書館との複合化は検討していない。また旧港地区でも図書館を活用する構想は現段階でない。 ・中央公園プール【関連課 水とみどり課】 屋内プールを整備する際、公園全体の再整備を進める予定。再整備で図書館や文化会館等との複合施設の整備も検討の余地あり。事業者からは、子ども用屋内施設、駐車場等の活用案があがっている。継続して情報共有を行う。 ・福祉総合センター未利用地は、特に具体的な計画等はない。	
2. 新たに策定される立地適正化計画での対象施設について ・計画は令和5年度中にたたき台を作成予定 ・立地適正化計画は、4候補地の全てに適用できる可能性はある。	
3. 図書館としての考え方 ・現地は一時的移転の問題や、図書館が必要と考える交流機能については敷地が小さく実現が難しいと考えているが、他の候補地での検討が進まない場合は、認定こども園との複合化も視野に入れた現地建替えの可能性もあると考える。 ・南海浪切ホールは、所管課、構想を策定している課、両課とも図書館との複合化は検討していない。 ・中央公園プールは、図書館との親和性が高い文化会館などが近くにあることから議論の余地はある。 ・駅東側を活性化させるための中心拠点施設として、空き地である福祉総合センター未利用地での可能性を検討したい。	

4. 候補地一覧表について

- ・南海浪切ホールは、新行財政改革プランの進捗管理の中で、令和7年度に統廃合や管理運営方法の方向性を検討するとしている。図書館の機能や面積を検討する際、都市中核地域周辺エリアで都市機能を集約、整理をしていく必要があるという観点からの検討が必要と考える。
- ・都市中核地域の中心にない中央公園プールを候補地にあげたのは、公共施設最適化計画との整合性の観点からマドカホールなどの文化施設等との複合化の検討が必要であることからである。
- ・検討委員会で一定判断できる整理ができれば、候補地を絞り込んでの検討もあると思う。いずれにせよ検討委員会で判断してもらうこととなるので、点数化できるものが作れたら理想だと思う。
- ・4つの候補地について、作業部会での意見を出し合いまとめたものを示したうえで、候補地を絞るかどうかについては検討委員会で判断してもらえばよい。より深く検討するとなると建設の視点からの詳細な検討も必要となるため、できれば2つに絞った方が進めやすい。
- ・点数化して判断するのが一番だが、候補地ごとに、すべてのレイアウトを考え、事業費を調べ、交付金制度を調べるというのは大変な業務量になる。ある程度候補地を絞れるのであれば絞り、より精度の高い調査を進める方がよい。まずは定性的なところで判断できるものを示すことでよいと考える。
- ・候補地一覧表を精査して、検討委員会で判断してもらう資料を作ることから始める。

以上

第3回作業部会	
日時：令和5年10月10日（火）13時半	場所 図書館本館 3階自習室
【出席者】 企画課長、企画課担当主幹、公共建築マネジメント課長、公共建築マネジメント課担当長、 図書館長、図書館企画担当主幹 業務委託者・議事 株式会社オンデザインパートナーズ（オンライン）	
【概要】 1. 今後のスケジュールについて <スケジュール案の説明> 第2回検討委員会を11月開催予定 候補地一覧表を事前配布時、委員の意見を確認予定。その後、作業部会で報告し、12月に第3回の検討委員会を開催し、検討の方向性を整理予定。 2. 候補地一覧表資料1～3の内容についての精査 <資料1：新しい図書館に適した候補地について> 今回の提示資料以外に何か検討委員会で示す予定はあるか。 →ない。 <資料2：新しい図書館の姿と今後の検討課題について> ・現地について、追加コンセプトに教育・歴史・文化の拠点とあるが、その文脈からすると自然資料館も複合化できるのではないか。 →現幼稚園には駐車場がなく、駐車スペース確保が必要となるため、自然資料館は難しいと考える。 ・参考資料の課題解決への寄与についての評価はルールを合わせた方がよい。 ・参考資料の図書館がもたらす本来の効果とは何か？説明を求められたときに、説明できるようにしておくといよい。 →知る権利の保障である。 <資料3：複合化候補施設と立地に関わる分析> ・防災の視点での評価ということで、基本的にはハザードエリアの内外で評価した。 ・人流動態の資料だが、福祉総合センター周辺は朝と夕方はかなり交通量が多く、渋滞の懸念があるのが見て取れる。 ・産業の活性化の項目で浪切ホールと kishi-biz との連携による相乗効果とは何か。 →講座の開催や本の展示など、他課の事業と図書館が連携することで相乗効果が出ているケースがあり、これらも同様の効果が期待できると考える。 3. 評価方法について ・検討委員会では、この資料をどう使うのか。 →資料を事前に検討委員に持参のうえ説明し、意見をもらう予定。 ・検討委員会としては、何かしら評価が必要となる。どう評価をするのかの質疑が出てくると思われる。 ・作業部会として、どこが適地と考えるか問われた場合の答えを用意する必要がある。検討委員が採点して決めると想定しているのか、議論のなかで1か所に絞ると想定しているのかどうか。	

→議論のなかで絞り込み等についても決めていければと考えている。

- ・次の検討委員会で、候補地一覧表の評価指標として他に何が必要かの意見を出してもらい、決定するような形で進められれば良いと考えている。

以上

第2回検討委員会	
日時：令和5年12月27日（水）13時半	場所 職員会館 2階大会議室
【出席者】 総合政策部長・総務部長・財務部長・市民環境部長・福祉部長・保健部長・子ども家庭応援部長・魅力創造部長・まちづくり推進部長・建設部長・教育次長兼教育総務部長・学校教育部長・生涯学習部長・図書館長・図書館企画担当主幹・図書館企画担当員 業務委託者・議事 株式会社オンデザインパートナーズ	
【概要】 1. 候補地一覧表の説明 ・資料1「新しい図書館に適した候補地について」 新しい図書館に求められる基本コンセプトや基本機能、基本機能に応じた必要な床面積など候補地ごとの基本情報を記載している。 ・資料2「新しい図書館の姿と今後の検討課題について」 それぞれの候補地での新しい図書館の姿を記載。基本的なコンセプトや機能は変わらないが、候補地により何と複合化するか、どのような追加機能をもたせるのかは変わってくる。資料2－2は、図書館と類似する機能をもつ施設、図書館と親和性がある施設を掲載した。 ・「市で抱える課題解決の寄与」 基本機能に加え追加機能を持たせることで、記載の課題解決に寄与できると考え整理した。また、各候補地の個別課題については、検討スケジュールが一致していないものが多く、限られた予算や時間の中、何を優先的に整備していくのかの判断が必要。 ・資料3「複合化候補施設と立地に関わる分析」 公共施設最適化計画や新行財政改革プランの視点からの検討が必要となっており、検討に必要な候補地ごとのデータを掲載。 2. 作業部会の進捗状況 ・作業部会で、それぞれの候補地の方向性やスケジュールについて、今後、関連する課とも複合化により機能の集約が図れないかどうかの協議を進める予定。並行して、教育委員会内でも同様の整理を進める。 ・採点評価の意見もあったが、図書館の目指してきた方向性と4候補地の整理内容を報告書に記載し、政策決定会議で報告したい。検討委員会で候補地一覧表に関して、意見があれば伺い、作業部会で反映する。 3. 第1回で質問のあった電子書籍等の考え方について（事業者より説明） 現時点で言えることは、ここ10年で電子書籍を紙の本の代替にすることは難しい。サービス提供のためには、およそ1000万円の費用が必要であり、ほとんどの自治体はコロナ関係の補助金で整備してきた。図書館で活用できるコンテンツが限られていることから、費用対効果や今後の動向を検証していく必要がある。	

泉大津市の図書館でも学生や若い人たちの利用が変わってきており、図書館で勉強や仕事をする人が顕著に増えている。新しい駅前図書館としての顕著な利用形態の変化であり、本市でもより大規模に計画していく必要があると考える。図書館は本を貸し出すだけでなく、場として使う認識に変わってきている。

4. 今後のスケジュールについて

- ・ 令和5年度中に今年度の協議・検討内容を報告書にまとめる。
- ・ 4候補地についてどのように掲載するのかは、改めて報告する。

以上

第4回作業部会	
日時：令和6年2月29日（木）13時半	場所 職員会館 3階和室
【出席者】 企画課長、企画課担当主幹、公共建築マネジメント課担当長、文化国際課長、水とみどり課長、生涯学習課長、郷土文化課長、図書館長、図書館企画担当主幹	
【概要】 1. 候補地一覧表について ・作業部会へ新たな参加があったため、7月に政策決定会議の専門部会として新図書館（本館）整備庁内検討委員会を立ち上げ、新図書館の立地と複合化について検討を進めてきた経緯を説明。 ・今後、候補地ごとの検討を進める。中央公園については、次年度以降、公園全体の再整備の検討も進める予定と聞いており、図書館等との複合化の可能性について公園を所管する水とみどり課、近隣施設を所管している文化国際課、生涯学習課、図書館との親和性の観点から郷土文化課との協議の場としたい旨説明。 ・政策決定会議については、今年度は経過報告、次年度は新図書館の立地場所の方向性を示すため検討を進めている旨説明。 2. 中央公園プール地について <水とみどり課説明> ・屋内プール整備は令和10年の完成を目指す。 ・残すべきとの声もあり、中央公園プール（屋外）の方向性は未定だが、築40年経過し老朽化している。少なくとも令和10年までは閉鎖できないと考えているが、屋内、屋外両方必要かの議論が必要。原課としては、子どもたちのための施設で検討したい。 ・中央公園プールの指定管理について、今あるものを管理してもらうだけになるのか、整備を含めた指定管理になるのかということがある。Park-PFIと言われるものであるが、民活を進めるかについては次年度検討を進める必要がある。 <文化国際課説明> ・マドカホールは築40年以上経過。比較的コンディションは良いが、配管、トイレ等水回りが気になる。 ・コロナ禍以降、稼働率は減少している。土日と平日の利用では利用の傾向が違う。 ・501席あるホールや展示場は必要と考える。 ・将来的に集約した施設は必要と考えているので複合化について検討の余地はある。 <生涯学習課説明> ・エリア的には大宮地区公民館が一番近いが、すでに男女共同参画センターと複合化済。 ・現在、公民館再編第1期実施計画において、城北、新条地区公民館の再編を進めている。体育館等の利用調整が必要となっている。 ・春木地区公民館を春木市民センター内の公民館分館と統合する計画も進めている。 ・個々の施設についての計画ではあるが、周辺エリアを含め、全市的な視点も考慮し整理を進める必要がある。	

<郷土文化課説明>

自然資料館と図書館の親和性があるので、図書館が複合化を検討するのであれば検討の余地はあるが、現在の施設が比較的新しく活用できるため、全体のバランスの中で考えていく。

<公共建築マネジメント課>

公共建築マネジメント課としては、施設の総量削減につながることを目標。図書館と親和性の高い施設は文化施設と生涯学習施設である。仮に、福祉総合センター未利用地に図書館を整備する場合、近隣の生涯学習施設である市立公民館と複合化する可能性がでてくるが、公民館機能と福祉総合センター機能は重複する部分があり、稼働率の問題も含め、新たな施設には福祉総合センターと重複する機能を除く必要があり、現状の図書館面積以下になるという話になる。

一方で、中央公園プールの近くには文化会館があり、目的の親和性があるって、集約化による面積削減も期待できる。面積削減の目的を達成する観点からは、文化施設と集約できるかどうかを検討するほうがよいという見解である。

中央公園については指定管理の問題などもあるが、可能性は検討できるのかというところ。まずは可能性の段階かと考えている。現状では、令和9年度までは中央公園プールは運営していく必要がある、Park-PFI等で民活するというのは、中央公園プール以外を使って何かするというイメージと考える。その方針は図書館検討の話とは切り分けて考える必要があるのではないか。中央公園の整備方針というの、指定管理の方針や中央公園プールを除いた用地で民活なり収益化施設の方向性を定めるのかと思われる。

<企画課>

本日の協議内容を踏まえ、中央公園プール地においては、公の施設との複合化について検討の余地があるという認識でよい。

→異議なし

<図書館>

水とみどり課の事業の方向性もあると思うので、今回は、検討の余地はあるということの確認と考えている。引き続き、検証するので協力をお願いします。

以上

新図書館（本館）整備庁内検討委員会委員

	役職	所属
1	委員長	生涯学習部長
2	副委員長	総合政策部長
3	委員	総務部長
4	〃	財務部長
5	〃	市民環境部長
6	〃	危機管理部長
7	〃	福祉部長
8	〃	保健部長
9	〃	子ども家庭応援部長
10	〃	魅力創造部長
11	〃	まちづくり推進部長
12	〃	建設部長
13	〃	教育次長（兼）教育総務部長
14	〃	学校教育部長

作業部会 企画課・公共建築マネジメント課・図書館 ※必要に応じて関係課を招集

第1回検討委員会	
令和5年7月11日	図書館3階 視聴覚室
第2回検討委員会	
令和5年12月27日	職員会館 2階大会議室
第1回作業部会	
令和5年8月2日	図書館3階 視聴覚室
第2回作業部会	
令和5年8月31日	図書館3階 視聴覚室
第3回作業部会	
令和5年10月10日	図書館3階 自習室
第4回作業部会	
令和6年2月29日	職員会館3階 和室